

令和7年度 【自己評価結果シート】

根崎こども園

1.園の教育・保育目標

心身ともにたくましく、よく遊ぶ子どもたちに
けじめのある子どもたちに
意欲のある子どもたちに
素直な気持を表現できる子どもたちに
やさしさと思いやりのある子どもたちに

2.本年度の重点目標

①子ども一人一人の尊重	日常の小さな出来事に目をむけ、一人一人の個性を尊重し、子どもを肯定的に捉え成長を支える
②職員の資質向上	職員一人一人が保育に関する新鮮な内容を発案し、具体的に実践し取組みを伝え合う

評価項目	評価		改善策
	いる	いない	
1.教育・保育の計画			
・園の基本理念・基本方針・目標を理解している。	13	0	-
・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づき、理念・目標を踏まえた全体的な計画に沿って長期・短期の指導計画を作成している。	13	0	
・乳幼児の発達や事態に即したねらいや内容を設定し、3歳未満は個別の計画を作成している。 ※PDCA(計画・実践・評価・改善)サイクルを用いて、質の向上・改善に努めている。	13	0	
2.保育内容			
・子どもに分かりやすい温かな言葉遣いで、穏やかに話すよう心掛けている。	13	0	-
・子どもの名前は、呼び捨てにせず「ちゃん」「くん」で呼んでいる。	13	0	
・「はやく」「ダメ」等、制止や禁止の言葉を不用意に使わないよう努めている。	13	0	
・子どもの目線に立ち、気持ちやおもいを大切にしながら対応している。	13	0	
・1人ひとりの発達の連続性や生活の連続性に考慮して生活リズムを整え、見通しをもった保育に努めている。	13	0	
・身近な自然や地域、社会と関わられるような取組みをしている。	13	0	
・子どもが意欲的に取り組める環境を用意したり、言葉をかけている。	13	0	
・遊びや生活を通して、人間関係が育つよう配慮している。 (例・社会的ルール・遊びのルール・当番活動・異年齢の交流など)	13		
3.保健管理	13		
・登園時や日常の健康観察、身体測定、健康診断を実地している。	13	0	-
・「健康・安全や発達の確保」を図るための学校保健計画(学校保健計画・学校安全計画)を策定し、計画に基づいて生活安全指導・避難訓練・交通安全指導を実地している。	13	0	
・乳幼児の病気やケガ・疾病予防等の情報提供を行っている。	13	0	
4.安全管理	13		
・事故予防・感染症予防・避難訓練・自然災害等に対応出来る危機管理マニュアルがあり、訓練や園内研修の中で活用している。	13	0	-
・安全点検(園内・保育室・遊具・ヒヤリハット)を実施し、会議を通して結果や改善点を職員が共有している。	13	0	
・緊急連絡カードの作成・一斉配信メールの登録・関係機関との連携体制を表示にするなど緊急事態発生時への取組みを行っている。	13	0	

評価項目	評価		改善策
	いる	いない	
5.食育			
・子どもが落ち着いて食事を楽しめるような工夫をしている。	13	0	—
・専門医から指示があった場合、アレルギー疾患をもつ子の状況に応じ、適切な対応を行っている。	13	0	
・給食会議の中で意見を交換し合い、連携して食育活動に取り組んでいる。	13	0	
6.特別支援教育	13		
・特別支援教育担当者を決め、家庭・地域社会・関係機関との連携を図っている。	13	0	—
・ケース会議のなかで問題意識の共有、連絡事項の確認を行っている。	13	0	
7.組織運営	13		
・職務分担表を配布して、各係りの担当、職務の役割分担を明確化し、管理責任体制の整備をはかり、職員間における「報告・連絡・相談・確認」の連絡・連携体制が整っている。17	13	0	—
・協力体制の重要性を認識し、上司の指示・指導・同僚の助言に耳を傾け、素直に聞き入れ決定事項・規則・手続き等を守ることができる。	13	0	
・各種文章や個人情報(パソコン・USB含む)を適切に管理し守秘義務の厳守・情報の取扱方針を周知徹底している。	13	0	
・時間を厳守し、健康管理にも気を配り、職務に積極的に取り組むことができる。	13	0	
8.研修(資質向上への取り組み)	13		
・キャリアアップ・更新講習・その他の研修に参加できる勤務体制をつくり、職員に適切な研修機会を確保している。	13	0	—
・保育研究に継続的に取り組み、研修・講習会の内容は園内研修を通して還元している。	13	0	
・園内研修や自己評価を定期的に行い、資質向上に努めている。	13	0	
9.情報提供	13		
・園に関する様々な情報を、園便り・保育参観・行事等を通して伝えている。	13	0	—
・ホームページを活用し、広く周知するための工夫をしている。	13	0	
・園の外掲示板等で、地域の人にも情報を発信している。	13	0	
10.子育て支援(地域・社会との連携)	13		
・様々な機会を通して、子どもの様子や出来事を伝え合い保護者との相互理解を図っている。	13	0	—
・中高生の保育体験・実習・ボランティアの受け入れにあたり、受け入れの意義や方針を理解している。	13	0	
・認定こども園として子育て支援が必須であることを理解している。	13	0	
11.環境整備	13		
・健康・安全かつ快適に生活できるよう、清潔感のある環境の維持に努めている。また、日常的に点検改善を行っている。	13	0	—
・絵本・教材・用具・用品を適切に活用し、点検整備している。	13	0	
・保育者は、人的環境であることを理解し(爪を短く切る・髪型・髪色・髪が顔にかからないようきちんと結ぶなど)清潔感のある身だしなみを心がけている。	13	0	

施設関係者評価委員会の意見（評議委員・理事）

- ・自己評価が向上している
- ・引き続きの向上を目指し、教育保育の見直しや改善に努めてほしい

あいあい会 公開保育 評価総括

①環境構成(コーナー・空間)

- ・コーナー遊びが充実しており、こどもが自ら遊びを選びやすい環境となっていた。
- ・一人で遊べるものと、友だちと関わってあそべるものの両方がバランスよく用意されていた。
- ・遊びの種類が豊富で、こどもの興味や発達に応じた選択が可能であった。
- ・コーナーの棚の高さが適切で、保育者が全体を見渡しやすい配置となっていた。
- ・環境自体が「主体性を引き出す仕組み」として機能していた。

②こどもの姿(主体性・遊びの展開)

- ・自分で遊びを選び、継続して取り組む姿がみられた。
- ・一人遊びから友だちとの関わりへと自然に広がっていく様子があった。
- ・おままごとでは、ぬいぐるみを使いながら一人でも工夫して遊びを展開していた。
- ・想像力を働かせながら、自分の遊びをつくる姿がみられた。
- ・子どもが「やらされる」のではなく、「時分で遊びをつくっている」状態がみられた。

③保育者の関り・視点

- ・保育者が、こどもの様子を把握しやすい環境となっており、適切なタイミングで関わる事ができていた。
- ・前に出過ぎず、見守りを基本とした関りが意識されていた。
- ・こどもの思いや遊びの広がりを大切に作る姿がみられた。
- ・「教える」ではなく、「支える」関わりが実施されていた。

④意見交換からの共通理解

- ・主体性とは「自由にさせること」ではなく、「自分で選び、決めている状態」である。
- ・環境が保育の質を大きく左右する。
- ・保育者の関わりかたによって、遊びの広がりや深まりが変わる。
- ・こどもの姿を丁寧に見取り、必要な関わりを選択する力が重要である。

⑤総括

・今回の公開保育では、〔環境構成〕、〔こどもの主体的な姿〕、〔保育者の関わり〕、これらが相互に機能し、こどもが自ら遊びに向かう姿は多くみられた。特に、遊びの種類の豊富さと環境の工夫が、主体性を支える大きな要素となっていたことが印象的である。今後も、こども主体の保育を軸に、環境と関わりをさらに高めていくことが求められる。